

公安委員会会議録

開催日時	自 午前10時00分 令和8年1月14日(水) 至 午後 1時07分	
開催場所	山口県警察本部公安委員会室、同公安委員室	
出席者	公安委員	野村委員長 弘永委員 今村委員

第1 審議概要

本部長、警務部長、生活安全部長、地域部長、刑事部長、交通部長、警備部長、情報通信部長及び首席監察官同席の上、下記の報告を受けた。

1 令和8年度組織改編計画

警務部長から、

組織改編計画の基本方針は、警察組織全体の最適化を図るため、リソースの再配分を含めた総合的な体制の見直しを推進するとともに、社会情勢の変化に適応する柔軟かつ効率的な組織を構築することである。

(1) 主な改編概要（現在の情勢への対応）

ア 匿名・流動型犯罪グループ及び特殊詐欺対策の体制強化

- 広域のかつ凶悪犯罪を敢行する匿名・流動型犯罪グループ対策を一層推進するため、刑事部に所属長級の匿名・流動型犯罪対策官を新設し、捜査の指揮体制を強化
- 匿名・流動型犯罪グループや特殊詐欺グループの犯行組織弱体化・壊滅のため、組織犯罪対策課特別捜査係の体制を維持

イ 刑事手続IT化に向けた対応

- 刑事手続IT化に向けて、関係規程の改正や資機材の整備等を行うとともに、指導・教養体制を構築
- 警察庁が整備するシステムに、県警察保有の捜査情報管理システムの情報を反映させるため、システム整備を推進する体制を強化

ウ 人身安全関連事案対策の体制強化

- 事案の認知段階から被害者等の安全確保を最優先とした対処を徹底するため、生活安全部門と刑事部門の連携を更に強化
- 人身安全関連事案に迅速かつ適切に対処するため、人身安全・少年課の保護対策班の体制を強化

(2) 主な改編概要（将来を見据えた中・長期的な対応）

ア 県民の利便性維持・向上及び実態に即した運転免許行政の実現

- 県民の利便性向上を図るため、運転免許証の即日交付施設として令和8年度に萩運転免許センターを設置予定
- 増加している特定技能外国人による外免切替の相談や申請手続に適切に対応するため、運転免許課試験係の体制を強化

イ 警察職員採用募集体制の強化

優秀な人材を確保するため、社会情勢の変化に応じた試験制度の改正を行うとともに、人事委員会事務局との調整を推進。さらに、長期的かつ総合的な視点で「受験・採用につなげる」募集活動を行うため、警務課人材戦略室の体制を強化

ウ 魅力ある職場環境の構築

県民の期待と信頼に応える県警察で在り続けるため、採用募集活動にも大きな影響を及ぼす警察職員の福利厚生の拡充に向けて厚生系の体制を強化

(3) その他

ア 業務の集約と事務処理の更なる効率化を目的に、刑事部・交通部・警備部の各管理係を警務課警務管理室に統合

イ 交通法令違反及び交通事件事故捜査の効率的な推進と将来を見据えた体制を構築するため、警察署交通取締り係と交通捜査係を統合

旨の説明があった。

今村委員から、「匿名・流動型犯罪グループに対して、指揮体制を強化することで迅速な対応が可能になると良い。刑事手続のIT化については予算面の問題もあるのではないかと考えているので、人身安全関連事案は優先度の高い課題と考えているので、引き続き取り組んでほしい。」旨の発言があった。

弘永委員から、「人身安全関連事案について、報告を受けている中で、最近は何れも多く複雑な事案が多々あると感じるので、大変だと思うが、引き続き適切な対応をよろしくお願いする。採用募集活動や採用後の研修施設について、山口県警察が単独で様々な取組を行うことも重要であるが、広く近隣他県や全国の県警察などと共同で取り組むことで高い効果が得られるのではないかと考えているので、引き続き取り組んでほしい。」旨の発言があった。

野村委員長から、「特殊詐欺対策について、ニセ警察詐欺対策は警察庁等と連携し、特に取り組んでほしい。人身安全関連事案は体制の強化に加え、対応する職員に対する支援等についてもよろしくお願いする。令和7年5月に設置した周南運転免許センターが好事例であったことから、令和8年度に設置予定の萩運転免許センターも成功するように取り組んでほしい。」旨の発言があった。

2 山口県警察学生サイバーコンテスト2025の開催

生活安全部長から、

当該コンテストは、若者のサイバーセキュリティ意識の向上を図るとともに、サイバーセキュリティ人材の裾野拡大を目的に、大学や高等専門学校等の学生が参加する競技形式のコンテストとして、県警察で初めて実施したもの。

(1) 開催日時及び場所

令和7年12月20日(土) 午後1時から午後4時10分までの間、県警察本部7階大会議室で開催

(2) 参加者等

情報系の教育を行っている県内の大学等8校の計35人(13チーム)

(3) 競技方式等

1チーム2～3人で構成するチーム戦で、競技時間120分の間に、デジタルフォレンジックの知識など情報技術に関する問題12問に対して、Webサービスやインターネット上から入手できるツール等を活用するなどして解答し、その合計得点を競う方式である。

得点は1,000点満点であり、同点の場合は回答に要した時間により順位を決

定した。

(4) 参加者等の感想

参加した学生からは、「サイバーセキュリティに興味を持った。」、「警察官という職業の魅力を感じられる機会であった。」、「来年度も参加したいと思った。」などの意見があり、引率の教職員からは、「参加してよかった。」、「学生同士の交流が深まった。」などの意見があった。

(5) 今後の方針

今年度の実施結果を踏まえ、来年度以降も当該コンテストの開催を検討する。

また、教育機関との更なる連携強化を図りながら、学生サイバー防犯ボランティアを含めた学生との交流の機会等を活用し、サイバーセキュリティ人材の発掘や育成に努めていく。

旨の説明があった。

今村委員から、「当該コンテストに参加した学生等のセキュリティ意識向上に繋がるなど、効果的な取組となり良かったと思う。加えて、参加した学生等が県警察本部庁舎を見学するよい機会となったのではないかと。引率の教職員と引き続き連携し、採用活動に結び付けていけると良い。」旨の発言があった。

弘永委員から、「先進的な取組であり意義のある行事だと思う。来年以降の開催について、将来的には各機関と連携しながら、実施主体を教育機関や県、民間企業等に移行していくことも考えられるのではないかと。いずれにしてもサイバーセキュリティに関する人材が育ち、セキュリティ意識が高まっていけば良い。」旨の発言があった。

野村委員長から、「サイバー空間の重要性が高まっていく中で、人材発掘に繋がる取組だと思う。一般の方がイメージする警察官は制服を着て街頭で勤務している印象が強いと思うので、今回のコンテストは、警察官がサイバー空間のセキュリティに関して活躍していることを大学生に知ってもらう良い機会である。」旨の発言があった。

3 山口県の交通事故情勢（令和7年中）

交通部長から、

令和7年中の交通事故発生状況について、死者数及び重傷者数は減少したものの、人身事故件数及び負傷者数は増加した。死者数は31人（前年比マイナス20人）、重傷者数は過去5年間の平均を若干上回る428人（前年比マイナス26人）であった。

(1) 交通事故発生状況の推移

死者数は令和4年と並ぶ過去最少であった。減少理由については、道路の改良や車両性能及び交通モラルの向上、医療技術の進化など様々な要因が考えられるが、内訳として高齢者の死亡事故が過去最少になったことも大きな要因である。

(2) 月別交通事故死者数の推移

月別の交通事故死者数を分析したところ、例年、事故件数が増加する秋以降に事故件数を抑制できたことが、年間の死者数が減少した要因の一つと考えている。

(3) 死亡・重傷事故の特徴

ア 状態別

死者数と重傷者数の合計を事故状況の状態別で分析したところ、自動車及び自転車使用中の事故は減少したが、歩行中の事故は増加した。

イ 歩行者の事故類型別

65歳以上の高齢歩行者が、横断歩道上又は横断歩道外での道路横断中の事故は前年から減少したが、同じく65歳未満の歩行者の道路横断中の事故は前年か

ら倍増した。

ウ 原付以上の運転者の年齢別

65歳以上の高齢運転者による事故件数は、前年に比べ減少しており、特に、80歳以上の高齢運転者による事故件数は、前年に比べ約40パーセント減少しているが、若年者の事故件数は増加している。

高齢運転者による事故件数が減少した理由として、交通事故を起こした高齢運転者に対して、交通事故の分析結果を踏まえた個別指導を強化したことが要因の一つと考えているが、免許人口10万人あたりで分析すると85歳以上の高齢運転者の事故率は高く、今後も80歳以上の高齢運転者は増加見込みであることから、高齢者の交通事故防止対策が重要であることに変わりはない。

エ 重大事故、その他の課題

飲酒運転による重大事故が依然として発生しているほか、歩行者に対して反射材の着用が浸透していないなどの課題も明らかになっている。

(4) 取組方針

交通事故の実態を踏まえ、高齢者の交通事故防止対策を重点に運転者・歩行者両面から各種施策を継続推進していく。

高齢運転者に対しては、交通事故を起こした場合の個別指導等を通じた安全教育や、運転免許証を自主返納しやすい環境整備などを行う。さらに、高齢歩行者に対しては、正しい横断方法や加齢に伴う身体機能の変化等を自覚し、安全な交通行動や夜間等における反射材着用が行われるよう各種取組を推進していく。

若年層に対しては、右折時の事故が多いなど経験不足による事故が認められることから、運転免許取得時の講習などにおいて注意喚起を促すことで事故抑止に努めることとする。

また、飲酒運転などの悪質危険運転者の取締りに加え、横断歩行者妨害等の検挙活動を強化し、横断歩道ハンドサイン運動などの広報啓発活動を推進していく。

さらに、関係機関・団体等と一層連携するとともに、あらゆる広報媒体やネットワークを活用し、交通事故の実態周知や交通安全指導などを行い、県民の交通安全意識の醸成を図っていききたい。

旨の説明があった。

今村委員から、「県警察の活動の結果、高齢者の死亡事故が減少するなど成果は評価できる。しかしながら、今後も高齢者が増加するので、気を引き締めてほしい。また、飲酒運転について、危険性を認識できていない方が多い気がするので、飲酒運転が減少するよう取り組んでほしい。」旨の発言があった。

弘永委員から、「最近飲酒運転に関する報告が増加していると感じている。飲酒後の帰宅時に公共交通機関が減少しているなど、それぞれ事情があると思うが、飲酒運転が減少するよう実効性のある取組をお願いしたい。」旨の発言があった。

野村委員長から、「交通事故死者数及び高齢者の事故死者数が減少し、良かったと思う。さらに減少できるよう、よろしく願います。」旨の発言があった。

第2 決裁・報告

課長等から下記のとおり説明を受け、決裁を行うなどした。

1 決裁概要

(1) 公安委員会宛て文書への対応方針

公安委員会会務官から、公安委員会宛てになされた文書について対応方針の説明

を受け、決裁した。

(2) 運転免許の行政処分

運転管理官から、本日の出席者3名の処分理由に係る事案概要、意見の聴取における供述内容について説明を受けた後、審議のうえ量定どおり処分を決定し、そのほか意見の聴取等欠席者11名の処分を決定した。

2 報告概要

(1) 初任科第199期卒業式の実施

警察学校副校長から、1月30日に実施する初任科第199期卒業式の実施要領について、説明を受けた。

(2) 拳銃射撃競技大会の開催

教養課長から、拳銃射撃競技大会の開催について、説明を受けた。

(3) 監察関係業務報告

首席監察官から、監察関係業務について、監察官室長から、令和7年中の警察本部長宛てになされた苦情の処理状況等について、監察官から、12月中の非違事案について、それぞれ報告を受けた。

第3 協議

今後の公安委員会における運営について、協議した。